



1 / 2 3 2年 図工「ステンシルはん画」

わくわくいっぱい

2年生の図工では、「ステンシルはん画」に取り組んでいます。ステンシルとは、好きな形を切り抜いた型紙（ステンシルシート）を画用紙に置き、その上から絵の具をつけたスポンジで“ぽんぽん”と色を重ね、型紙の形を転写する技法です。

子どもたちは、自分で考えた動物や星、身近なものなど、思い思いの形をていねいに切り抜きました。スポンジで色をのせるときには、「きれいに出来るかな？」「もっと色を重ねたい！」と夢中になって取り組む姿が見られました。



そして、いちばんの“わくわく”は、型紙をそっとはがす瞬間です。白い形がパッと浮かび上がると、「わあ！出てきた！」「きれい！」と歓声があがり、思いどおりの形があらわれる喜びを味わっていました。

型紙の位置や色の組み合わせを工夫しながら、画面をつくり上げていく過程に、子どもたちの想像力と表現する楽しさがたくさんつまった活動となりました。

1 / 2 3 4年 国語「数え方を生み出そう」

長い歴史と進化

4年生は、国語の新しい単元「数え方を生み出そう」に入りました。はじめに、教師からにんじんの写真が提示され、「合わせるといくつ？」という問いかけがされました。子どもたちからは、「〇本」「〇つ」という2種類の答えがあがり、早速“数え方の違い”に気づく姿が見られました。

「なぜ“本”で数えるのか？」という問いに対しては、「細長いから」「棒みたいだから」など、形の特徴から理由を考える意見が活発に出されました。物の形や特徴を捉え、それに合った数え方が生まれてきたという視点に、子どもたちは興味津々です。

続いて教科書の文章を読み、物の数え方は人が生み出てきたものであり、国や時代によってさまざまであることを学びました。自分たちが当たり前のように使っている言葉にも、長い歴史や工夫があることを知り、子どもたちの視野がぐっと広がったようです。

読み終えた後、「いろいろな感じ方があった」「数え方の種類の多さにびっくりした」「古くからある言い方なのに、今も使っているのがすごい」「日本にはこんなにたくさん数え方があるんだ」といった感想が共有され、学習への関心が高まっている様子が伝わってきました。

最後に教師から、「まとめでは、みんなに“新しい数え方”を作ってもらいます」と目標が示されると、教室は「おもしろそう！」「早く考えたい！」と一気に期待感に包まれました。日常の言葉に目を向け、新しい発想を生み出す楽しさに出会う、活気あふれる学習のスタートとなりました。

